

「節分」と「立春」



2月3日は「節分」そして、2月4日は、「立春」です。立春、つまり、この日から暦（こよみ）の上では、春になります。でも実際は、1年間で最も寒い時期です。

「節分」という言葉は、「季節が分かれる時」という意味です。本来は立春、立夏、立秋、立冬の前日は全て節分と言っていました。ところがいつごろからか、立春の前日だけ「節分」と言うようになりました。

節分はもともと、中国から伝えられた行事ですが、日本でも広く行われるようになりました。春をむかえるにあたって人々にとって良くないことを追い払い、新しい年の豊作（作物がいっぱいできること）や福を願ったことから、節分と追儼（ついな）が生まれました。追儼（ついな）は「鬼たいじ」「厄払い」「厄おとし」などと言われ、悪いことや悪い病気をもたらす悪い鬼を退治する事を言います。日本で、この追儼（ついな）が始まったのは西暦706年（今から1311年前）に、宮中（天皇を中心とする集団）で初めて行われたことが、昔の書物に書かれています。それによりますと、その年には、諸国に悪い病気が流行し、多くの死者が出たので、一生懸命に「鬼たいじ」をしたと書かれています。宮中では神主さんのような方々が鬼の姿をして、また金色の仮面に矛（ほこ）や盾（たて）を持った者が、豆を撒きながら悪魔や鬼を追い払い、新しい年を迎えたと言います。皆さんも、心の中の悪い鬼を追い出し、病気をしないで、元気に春をむかえましょう。

